

2022年度 第2回9月阪大本番レベル模試地理 採点基準

1 単答記述問題

誤字，脱字，漢字間違いは0点。

2 論述問題

- ① 「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。
- ② 以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

3 共通減点基準

- ① 加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは1点減点。
- ② 下線の付け忘れは1点減点。
- ③ 指定用語不使用は1点減点。
- ④ 字数オーバーは1点減点。

*減点しなくていい要素，その他の注意

- ① 地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇔スロベニア，パキスタン⇔パーキスタンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。
- ② 加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は0点だが，減点はしない。
- ③ 加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。
- ④ 文章が未完のものも減点しない。

4 採点記号について

1. <□□□□> 加点ポイント
2. □□□□× 事実に誤認あり
3. □□✓□□ 誤字あり／脱字あり

5 設問別加点基準

- 1) 部分は必須キーワードであり、この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。
- 2) ○○／△△ は「○○でも△△でも可」を意味する。
- 3) 「② (①の説明として)」は、加点ポイント①を正解していなくても、加点ポイント②に該当すれば加点する。
- 4) 「 A 」が「 B 」→1点 は、「 A 」と「 B 」の両方の要素があれば1点加点する。
- 5) [指定語句] は、文中のどこかで使用していれば減点しない。

(I) 配点 50 点

問1 20点

南東貿易風がペルー海流を大陸西岸から引き離すように吹くため、海面付近の海水を補うように湧昇流が生じ、深層の栄養塩を表層に巻き上げる。よって、Aはアンチョビの好漁場となる。ただし、貿易風が弱まりエルニーニョ現象が生じ、湧昇流が弱まると、Aの漁獲量は激減する。漁獲量が減って家畜飼料となるアンチョビの魚粉の流通量が減ると、タンパク質の豊富な家畜飼料となる大豆に畜産農家の需要が集中し、大豆価格が上昇する。

【加点ポイント】

i) 好漁場となる要因について (10点)

- ① (海流を促す恒常風) 南東貿易風 →2点 (※「貿易風」のみ →1点)
- ② (①が) ペルー海流を西向きに流す／ペルー海流を北上させる
／暖流を西に流し補流としてペルー海流が流れる →2点
- ③ (②により) 湧昇流が生じる／上向きの水の流れが生じる →2点
- ④ (③は) 深層の栄養塩を表層に巻き上げる／栄養塩が浮上しプランクトンの餌になる →2点
- ⑤ (主な魚種として) アンチョビ／アンチョビー／カタクチイワシ →2点

ii) 漁獲量が減る要因について (6点)

- ① エルニーニョ現象が起こる →2点
- ② (①の要因) 貿易風が弱まる →2点
- ③ (②により) ペルー海流が弱まる／暖水が大陸西岸に留まる
／湧昇流が弱まる／プランクトンが減る →2点

iii) 不漁時の大豆価格との関連について (4点)

- ① (アンチョビや大豆の用途として) 飼料／肥料 →2点
- ③ (大豆価格との関連) 「アンチョビ／魚粉 の代用」として「大豆の需要が増える」→2点

問2 15点

扇状地は、河川が山間の谷から平野に出て流れが弱まることにより、土砂が扇状に堆積して形成される。河川から直接水を引ける扇頂は、谷口集落が発達する。河川が伏流となり水を得にくい扇央は果樹園や桑畑として利用されてきたが、近年は宅地化も進む。伏流水が湧水する扇端は水を得やすく、古くから集落や水田が立地した。

【加点ポイント】

i) 扇状地の形成について (6点)

- ① (形成場所) 河川が平野に出るところ／谷口／河川が狭い山間から広い平坦地に出たところ →2点
- ② (①の場所で) 河川の流れが弱まる／河床勾配が緩やかになる／下流への運搬力が落ちる →2点
- ③ (②により) 「土砂／砂礫」が「扇状に堆積する」 →2点 (※「土砂が堆積する」のみ →1点)

ii) 扇状地の土地利用について (9点)

- ① (扇状地の最上流部の名称) 扇頂 →1点
- ② (①の土地利用) 集落 →1点
- ③ (②の理由) 河川から直接水を引ける →1点
(※「別解」②③で「急傾斜のため／平坦地が少ないため」「土地利用が遅れている」 →2点)
- ④ (扇状地の中央部の名称) 扇央 →1点
- ⑤ (④の土地利用) 果樹園／桑畑／近年は宅地化も進む →1点
- ⑥ (⑤の理由) 「伏流する」ため「水を得にくい／地下水面が低い／水はけがよい」 →1点
- ⑦ (扇状地の末端部の名称) 扇端 →1点
- ⑧ (⑦の土地利用) 集落／水田 →1点
- ⑨ (⑧の理由) 「湧水する／伏流水が湧出する」ため「水を得やすい」 →1点

問3 15点

南西季節風が吹く北半球の夏にはXからYへ、北東季節風が吹く北半球の冬にはYからXへの航海が容易になる。よって、XとYの間では海上交易が盛んに行われた。Yの商人が頻りに訪れることで、Xでは、アフリカ東部の在来の言語がアラビア語の影響を受けてスワヒリ語に変化し、また、イスラームを信仰するものが増えた。

【加点ポイント】

i) 交易発展の要因について (8点)

- ① (交易の手段について) 海上交易／船での往来 →2点
- ② (季節風の利用) Yが「夏」のとき(Xの冬)は「南西季節風」で「XからYへ」航行 →3点*
- ③ (季節風の利用) Yが「冬」のとき(Xの夏)は「北東季節風」で「YからXへ」航行 →3点*
* (「1点」+「1点」+「1点」 →3点)

ii) Xの言語と宗教について (7点)

- ① (Xで発達した言語) スワヒリ語 →2点
- ② (①の成り立ち) 在来の言語がアラビア語の影響を受けた
／アフリカ東岸の言語(バントゥー諸語)にアラビア語の影響が加わった →2点
- ③ (宗教について) イスラーム(イスラム教)が広まった／ムスリムが増えた →3点

(II) 配点 50 点

問1 15 点

ユダヤ人がパレスチナにイスラエルを建国すると、その地に暮らしてきたアラブ人が難民となり、イスラエルとアラブ諸国の対立が激化した。アラブ諸国がイスラエル支持国への石油の禁輸を行うと原油価格が高騰して第一次石油危機となり、中東の石油に依存する日本では太平洋ベルトの重厚長大型産業と遠洋漁業が斜陽化した。

【加点ポイント】

i) 対立の経緯について (5 点)

① 「ユダヤ人」が「パレスチナ」に「イスラエル」を建国した →3 点*

* (「1 点」+「1 点」+「1 点」→3 点)

② (①により) アラブ人(パレスチナ人)が難民になった／パレスチナ人が住んでいた場所を追われた
／イスラエルの建国をアラブ人が認めなかった
／パレスチナにはアラブ人が住んでいたのにユダヤ人がイスラエル建国を強行した →2 点

ii) 1973 年の出来事について (6 点)

① (出来事として) 第一次石油危機／第一次石油ショック／第一次オイルショック →2 点

(※「石油危機／石油ショック／オイルショック」のみ →1 点)

② (①の背景) アラブ諸国がイスラエル支持国への石油輸出を禁じた
／O A P E Cが親イスラエル国への石油輸出を止めた →2 点
 ↓
 「O P E C」は不可

③ (②により) 原油が高騰した →2 点

iii) ii) の日本への影響 (4 点)

① (工業への影響) 重厚長大型産業が斜陽化した／重厚長大型から軽薄短小型へと変化した
／鉄鋼業や造船業などが不振となった／重工業(重化学工業)が衰退した →2 点

② (水産業への影響) 遠洋漁業が衰退した →2 点

問2 20 点

英領インドは、独立時にヒンドゥー教徒の多いインドとイスラム教徒の多いパキスタンとに分裂した。その際、住民の大半がイスラム教徒であるカシミール地方の藩王が、自らがヒンドゥー教徒であることからインドへの帰属を決め、以降この地域の領有権をめぐるインドとパキスタンが対立している。また、イスラム教徒が多い現在のバングラデシュがパキスタンの飛び地となったが、従属的な立場に置かれたため、独立戦争を経て分離独立を果たした。

【加点ポイント】

i) 英領からの独立時の分裂の背景について (6 点)

① 「ヒンドゥー教徒」の多い「インド」 →3 点

② 「イスラム教徒」の多い「パキスタン」 →3 点

(次ページに続く)

ii) i) の時の問題点について (8点)

- ① (問題の起きた場所) カシミール地方 →3点
- ② (問題の内容) 「住民はムスリム」だが「藩王(支配者)がヒンドゥー教徒」→3点
- ③ (②の結果) 藩王がインドへの帰属を強行した →2点

iii) バングラデシュについて (6点)

- ① (バングラデシュは) パキスタンから独立した/パキスタンから分離独立した →2点
- ② (バングラデシュは) ムスリム(イスラム教徒)が多い/パキスタンと同じ宗教である →2点
- ③ (独立の背景) パキスタン国内で従属的な立場であった/植民地的な地位であった
/政治や経済の主導権は西パキスタンが握っていた →2点
(※「民族や言語がパキスタンと異なる」のみ →1点)
(※「飛び地であった」のみ →加点しない)

問3 15点

【指定語句】

西部	東部	クリミア半島	NATO
----	----	--------	------

 4つすべて使用

(※下線不問 指定用語不使用は1つにつき1点減点)

ウクライナは、西部に親欧米派のウクライナ人、東部に親ロシア派のロシア人が多い。特にクリミア半島はロシア人の割合が高く、ロシアがその併合を一方的に宣言して両派の対立が深刻化した。そうした状況下で、親欧米派の政権が、かつてソ連と対峙したNATOへの加盟を明確に目指すようになり、ロシアがそれに強く反発した。

【加点ポイント】

i) ウクライナについて (3点)

- ① (東西の差異について) 「西部にウクライナ人」、「東部にロシア人」が多い
/ 「西部はウクライナ語」を話す人が多く 「東部はロシア語」を話す人が多い
/ 「西部は親欧米派」が多く 「東部は親ロシア派」が多い →3点

ii) クリミア半島について (6点)

- ① ロシアがクリミア半島の併合を一方的に宣言した (2014年)
/ロシアがクリミア半島に侵攻し実効支配を行っている →3点
- ② (①の背景) ・クリミア半島はロシア人の割合が高い/クリミア半島にはロシアからの移民が多い
・クリミア半島で独立を問う住民投票が可決した
・クリミア半島には不凍港があり経済的価値が高い }
いずれかで3点

iii) ウクライナとロシアの関係悪化の背景について (6点)

- ①ウクライナの政権が親欧米派になった/ウクライナの親ロシア派大統領が失脚した
/ウクライナ政権がロシアではなくEUとのつながりを重視するようになった →3点
- ②ウクライナがNATOへの加盟を目指すようになった
/ロシアがウクライナのNATO加盟に強く反発した
/ロシアがウクライナ加盟によるNATOの拡大を警戒した
/ウクライナがロシアとNATOの緩衝国にならなくなる可能性が生じた →3点